

2025年度大学院博士後期課程入学試験問題

研究科名	科目名
文学研究科 人文学専攻	英語

問 次の英文を日本語に訳しなさい。

Manchu 満洲
assimilation 同化
acculturation 文化変容
legitimacy 正統性
particularism 排他主義
meritocracy 実力主義
aristocracy 貴族主義

出典 Elliott, Mark C. *The Manchu Way: The Eight Banners and Ethnic Identity in Late Imperial China*, Stanford University Press, 2001

*問題本文は著作権法上の理由から記載することができません。上記出展箇所をご確認ください。

解答または解答例：

Sample Answer(s) or Outline：

満洲人の研究をはじめた当初、私は17～18世紀における満洲人のアイデンティティを深く理解することが重要だと確信していた。それは、「少数民族支配の問題」——すなわち清王朝が約300年にわたって権力を維持できた理由——と、「満洲問題」——清朝の支配者が漢族ではなく満洲人であったことが清末の歴史にいかなる影響を与えたのか——を解明するうえで不可欠だと考えたからである。

これらの問いに取り組むにあたり、私は従来の同化論を退けた。そして、満洲語文献が示す満洲史の実像や、現代の民族形成に関する知見（特に漸進的同化と持続的アイデンティティ体系の複雑な関係性）と整合する、より複雑な図像を描き出した。

少数民族支配の問題に関しては、まず「満洲」というカテゴリーを維持することが清の支配者にとって重要であった理由を明らかにしようとした。私の仮説は、王朝の正当性が二種類の言説に依拠し、清朝の統治者自身もそのように認識していたというものである。一つは正統的な漢族の王権観に基づく言説、もう一つは異民族征服集団としての満洲人の利益という、より限定的な立場に基づく言説である。これらの両極の間には、広範な多数派の主張と狭義の少数派の利益、普遍主義と特殊主義、能力主義と貴族主義、文官的理想と武官的理想とのあいだに、持続的な緊張関係が存在していたのである。清朝が中国を統治する上で直面した主な課題の一つは、こうした緊張関係を均衡に保つことにあった。どちらか一方に偏りすぎれば、破滅の危険を招く恐れがあったからである。

出題意図：

Purpose of Question：

本問題は、単なる語学力のみならず、「新清史 (New Qing History)」という東方ユーラシア史学の重要パラダイムへの理解を併せて問うている。「満洲人は漢文化に同化した」という旧来の通説を否定し、満洲語史料に基づき彼らが独自のアイデンティティを保持していたことを重視する筆者の主張を的確に捉え、漢族の王権観と満洲人の利益との緊張関係を均衡に保つことの重要性を主張する著者の論理を、日本語の訳文で再構成できるかどうかを測ることを意図している。